

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	心理学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1 年	単 位 数	2
担当講師	安東桃子	取得資格	臨床心理士・公認心理士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	2 3
授業内容	人の心やその状態、様々な能力やその成長や発達、集団の中での人の心や行動を探求出来るよう学習していく。 人間理解のための基本的なことを学び臨床心理学につなげていく。				
到達目標	心理学の基礎を学び、人間というものがどういう存在でどういう関わりの中で生活しているか学ぶ。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	心理学の歴史(2時間)	講義
2	心と脳(2時間)	講義
3	親子関係(2時間)	講義
4	発達(2時間)	講義
5	感覚・知覚(2時間)	講義
6	動機付けと情動(2時間)	講義
7	知能・学習(2時間)	講義
8	記憶(2時間)	講義
9	性格(2時間)	講義
10	適応とストレス(2時間)	講義
11	発達障害(2時間)	講義
12,13	精神障害と心理的支援(4時間)	講義
14	個人と集団(2時間)	講義
15	まとめ(2時間)	講義

テキスト 参考書等	人間理解のための心理学
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席 定期試験

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	人間関係・コミュニケーション論			時間数	15時間
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1年	単位数	1
担当講師	安東桃子	取得資格	臨床心理士、公認心理士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	23
授業内容	講義形式、ロールプレイング コミュニケーション法を伝授				
到達目標	危機状態にある人々の支援の考え方と方法について学習する。特に人間関係に重要であるコミュニケーションに焦点をあて、聴き方、話し方、対応の仕方についてロールプレイングを通して学習し患者の理解と対応ができるようになる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	人間関係論への導入(2時間)	講義
2	学校職場で見られる歪んだ人間関係のいじめ、ハラスメントについて概説(2時間)	講義
3	コミュニケーションスキルの概説(2時間)	講義
4	コミュニケーションスキル訓練の概説(2時間)	講義
5	聴き方スキルのロールプレイング 1(2時間)	講義
6	聴き方スキルのロールプレイング 2(2時間)	講義
7,8	うつ、不安、慢性の病気におけるコミュニケーションの仕方(3時間)	講義

テキスト 参考書等	人間理解のための心理学
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	テスト

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	社会福祉学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1 年	単 位 数	2
担当講師	安藤実和子	取得資格	社会福祉士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	20
授業内容	1. 現代社会における社会福祉の意義や理念を理解する。2. 社会福祉サービスの利用者（特に障害者）のニーズを理解する。3. 社会福祉サービスの内容（特に障害者関係）と提供主体を理解する。4. 援助者に求められる資質（知識・技術）を理解する。				
到達目標	地域リハと関連のある様々な社会福祉制度を理解し、適切な対応が出来る人材を養成する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	理学療法士に求められる社会福祉の視点（2時間）	講義
2	国民の生存権保障のための社会保障制度（2時間）	講義
3	日本と欧米の社会福祉の歴史（概観）（2時間）	講義
4	社会福祉の理念（ノーマライゼーション、自立支援等）（2時間）	講義
5	日本の社会福祉サービスの対象者理解（全般）（2時間）	講義
6	日本の社会福祉サービスの対象者理解（障害者に限定）（2時間）	講義
7	日本の社会福祉サービスの対象者理解（対象者と法の関係）（2時間）	講義
8,9	介護保険制度の成立背景とサービス利用までのプロセス理解（4時間）	講義
10,11	障害者自立支援法の成立背景とサービス利用までのプロセス理解（4時間）	講義
12	障害者自立支援法に基づくサービスの理解（2時間）	講義
13	社会福祉援助に求められる原理と援助技術体系の理解（2時間）	講義
14	援助者に求められる基本的原則（信頼関係の構築、バイステックの7原則）（2時間）	講義
15	援助チームの一員に求められる基本的視点（チームアプローチ、地域・在宅福祉等）（2時間）	講義

テキスト 参考書等	系統看護学講座 社会福祉
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席 定期試験（前期）

シラバス（後期）宮崎医療福祉専門学校

授業科目	医療経営学			時間数	15
学科	理学療法士養成学科	学年	1年	単位数	1
担当講師	林欣也	取得資格	診療情報管理士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	経験年数	5
授業内容	医療経営学とは、利益の追求ではなく、ステークホルダー(利害関係者)を幸福にするための手段を学ぶことである。人的サービスの視点から人間関係を探求する学問である。つまり、well-being(個人的、社会的に、より良く幸せに生きる)を探求する視点から学ぶ内容。さらに医療機関の経営について、学生による研究発表を行う内容となっている。				
到達目標	人的サービス組織である医療機関経営に適応できる総合的視点を持った人材を育成することを目標とする。				

授業計画

回数	授業内容	方法
1	オリエンテーション: シラバスについて(評価・グループワーク等)(2時間)	講義
2	組織マネジメント I: 医療経営に大切なこと(well-being・人材と人財・ ESG 投資等)(2時間)	講義
3	組織マネジメント II: 従業員満足(ES)・アンガーマネジメント・クレーム対応(2時間)	講義
4	組織マネジメント III: 自己開示・メンタルヘルス・ハラスメント(2時間)	講義
5	人材マネジメント I: コミュニケーション(アサーティブ・聴く技法・心配り等)(2時間)	講義
6	人材マネジメント II: 自己探求エニアグラム(2時間)	講義
7	グループワーク I: 医療機関経営の研究発表会 事前研修(2時間)	講義
8	グループワーク II: 研究成果発表(1時間)	講義
テキスト 参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料「医療経営学」。 ・日本ホスピタリティ検定協会「社会人ホスピタリティ要点チェック&確認問題」経済法令研究会。 	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・単元毎/最終の理解度 確認小テスト 60%。発表 40%。 ・テーマ毎の確認小テスト及び発表にて単位認定。 	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	統計学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1 年	単 位 数	2
担当講師	浅野昌充	取得資格			
		実務経験	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	経験年数	
授業内容	統計学の基本を理解し、統計学の考え方から問題を立て、解決できるようになる。				
到達目標	様々なデータから統計学を用い、検証できるようになる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	統計学は何を問題とし、何ができるのか。(2時間)	講義
2	統計学に必要な数学(2時間)	講義
3	正規分布の理解と数表の見方(Ⅰ)度数分布(2時間)	講義
4	正規分布の理解と数表の見方(Ⅱ)母平均の推定(2時間)	講義
5	正規分布の理解と数表の見方(Ⅲ)標本標準偏差の推定(2時間)	講義
6	平均値の度数分布(Ⅰ)平均値をとる意味(2時間)	講義
7	平均値の度数分布(Ⅱ)母平均の推定(2時間)	講義
8	平均値の度数分布(Ⅲ)標本標準偏差の推定(2時間)	講義
9	t-分布の発見とt-分布を用いた母平均の推定(2時間)	講義
10	検定法(Ⅰ)t-検定(2時間)	講義
11	検定法(Ⅱ) χ^2 乗検定(2時間)	講義
12	検定法(Ⅲ)検定法の一般化(2時間)	講義
13	相関係数の意味と計算(2時間)	講義
14	回帰直線の意味と計算(2時間)	講義
15	分散分析の理解(2時間)	講義

テキスト 参考書等	基礎 医学統計学
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席 定期試験

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	社会の理解			時間数	15
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	林 欣也	取得資格	高等学校教諭 2級普通免許社会		
		実務経験	有・無	経験年数	
授業内容	様々な社会問題を取り上げ、理解し、その上でその社会を活かし関係を築いていくか。Win(自分)-Win(患者／利用者)-Win(社会)の視点を大切にし、理学療法士として必要な一般社会知識を学んでいきます。				
到達目標	日常生活の社会的行為や制度を読み解く思考に馴れ、現場実践で充分役立つように、社会と人間・労働問題・社会保障・環境問題を学修し、理学療法士として頼れる存在になること。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	オリエンテーション：授業の進め方、目的、到達目標、評価方法の説明 並びに医療と福祉の関係（2時間）	講義
2	社会と人間：患者／利用者の心理、満足、クレーム対応 等（2時間）	講義
3	社会と企業：経営理念・企業倫理・コンプライアンス 等（2時間）	講義
4	労働問題Ⅰ：労働問題の発生と歩み、労働三法（2時間）	講義
5	労働問題Ⅱ：労働形態の多様化（2時間）	講義
6	社会保障：社会保障の意味と制度の発達並びに課題（2時間）	講義
7	環境問題：SDGs(持続可能な開発目標)と社会環境（2時間）	講義
8	振り返り（1時間）	講義

テキスト 参考書等	プリント配布
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	単元毎に理解確認小テスト 70%。最終確認テスト 30%。

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	環境学			時間数	15時間
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1年	単位数	1
担当講師	川村 修	取得資格			
		実務経験	有・ <input type="checkbox"/> 無	経験年数	
授業内容	本講義では、「環境問題」とは何かを学び、「環境問題」に対処するための基礎的知識を習得することを第一の目標とする。さらに人類の生存を脅かす「環境破壊」についての理解を深め、私たちはこれから何をなすべきかについて考えたい。				
到達目標	環境に対する考え方を学ぶ				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	本講義のあらまし(環境、環境問題、環境破壊、公害)(2時間)	講義
2	環境中の物質移動(2時間)	講義
3	大気(2時間)	講義
4	水(2時間)	講義
5	土壌(2時間)	講義
6	生物圏(2時間)	講義
7	環境問題と私たちの生活(2時間)	講義
8	まとめ(1時間)	講義

テキスト 参考書等	プリント配布
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	確認テスト

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	外国語（英語）			時間数	30時間
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1年	単位数	2
担当講師	隈元正行	取得資格	高等学校英語教諭免許		
		実務経験	有・ <input type="checkbox"/> 無	経験年数	
授業内容	医学界でも英語を使用することは通常となってきた。 最近のトピックスを中心に読解ならびに会話を楽しく学ぶ。				
到達目標	英語の楽しさや将来英文読解などで困らないよう学習する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	英語の基礎(2時間)	講義
2	ウォッチングニュース1(2時間)	講義
3	ウォッチングニュース2(2時間)	講義
4	ウォッチングニュース3(2時間)	講義
5	ウォッチングニュース4(2時間)	講義
6	ウォッチングニュース5(2時間)	講義
7	ウォッチングニュース6(2時間)	講義
8	ウォッチングニュース7(2時間)	講義
9	ウォッチングニュース8(2時間)	講義
10	ウォッチングニュース9(2時間)	講義
11	ウォッチングニュース10(2時間)	講義
12	ウォッチングニュース11(2時間)	講義
13	ウォッチングニュース12(2時間)	講義
14	ウォッチングニュース13(2時間)	講義
15	まとめ(2時間)	講義

テキスト 参考書等	ウォッチングニュース
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	確認テスト

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	医学英語			時間数	15時間
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1年	単位数	1
担当講師	隈元正行	取得資格	高等学校英語教諭免許		
		実務経験	有・無	経験年数	
授業内容	医学界で使用される英語的表現を学ぶ。テキスト中心。				
到達目標	臨床で英語表現にて実際使用出来るようになる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	医学英語を知る(2時間)	講義
2,3	体の各部位の英語について学習する(4時間)	講義
4,5	運動器や消化器など具体的表現を学ぶ(4時間)	講義
6	簡単な医学的文献を見る(2時間)	講義
7	単元テスト(2時間)	講義
8	まとめ(1時間)	講義
テキスト 参考書等	はじめて学ぶ医療英語	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	確認テスト	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	保健体育			時間数	15時間
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1年	単位数	1
担当講師	本田隆広	取得資格	保健体育教員免許、理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	27
授業内容	① 球技（バレーボール、バドミントン等）の実施 ② 捻挫、打撲等の応急手当				
到達目標	① 全身運動の効果、チーム内のコミュニケーションの大切さを学ぶ。 ② 外傷急性期の処置について学ぶ。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	ダイナミックストレッチング、スクワット動作（2時間）	実技講義併用
2	球技（バレーボール）（2時間）	実技講義併用
3	球技（バレーボール）（2時間）	実技講義併用
4	球技（バドミントン）（2時間）	実技講義併用
5	球技（バドミントン）（2時間）	実技講義併用
6	体幹、下半身自重トレーニング（2時間）	実技講義併用
7,8	スポーツ外傷応急処置（3時間）	実技講義併用
テキスト 参考書等	マッスルインバランスの理学療法 その他、配布資料	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席および履修態度 小テスト（筆記）、口頭試問、実技等を併せて成績とする。	

シラバス（前期、後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	解剖学 I			時間数	90
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1 年	単位数	3
担当講師	山口良二	取得資格	獣医師		
		実務経験	有・無	経験年数	
授業内容	人体各臓器の構造と機能について理解を深め、理学療法習得の基盤を築く。				
到達目標	解剖学(および組織学)を通じて人体を構成する各器官系の構造・機能を理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	解剖学総論(2時間)	講義
2	人体の基本構造(2時間)	講義
3	組織学総論:基礎知識(2時間)	講義
4-6	血液:血液の組成と機能・血液型(6時間)	講義
7-9	循環器系:心臓の構造と機能(6時間)	講義
10-12	循環器系:血管の構造・走行・機能(6時間)	講義
13-15	呼吸器系:呼吸器の構造と機能(6時間)	講義
16-18	消化器系:上部消化器【口腔から食道】(6時間)	講義
19-21	消化器系:下部消化器【胃から肛門】(6時間)	講義
22-24	消化器系:肝臓・膵臓・胆嚢の構造と機能(6時間)	講義
25-27	免疫系:免疫と生体制御(6時間)	講義
28-30	腎・泌尿器:腎臓・尿管・膀胱・尿道(6時間)	講義
31-33	内分泌:内分泌とホルモン(6時間)	講義
34-36	生殖器系①:男性生殖器(6時間)	講義
37-39	生殖器系②:女性生殖器(6時間)	講義
40-42	感覚器①:皮膚・平衡聴感覚(6時間)	講義
43-45	感覚器②:味覚・視覚器(6時間)	講義
テキスト 参考書等	系統看護学講座 準拠 解剖生理学ワークブック 人体の構造と機能(1)解剖生理学 系統看護学講座 専門基礎分野	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	定期試験 前期に2単位分(60時間)、後期に1単位分(30時間分)の判定をそれぞれ 100点満点で行う。	

シラバス（前期・後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	解剖学Ⅱ			時間数	90時間
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1年	単位数	3
担当講師	保田昌宏、山口良二	取得資格	獣医師		
		実務経験	有・ <input type="checkbox"/> 無	経験年数	
授業内容	人体解剖学の基礎知識を局所解剖学的に行い、各器官との関連性を理解させる。				
到達目標	理学療法士に必要な人体構造を学ぶ。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1,2	総論解剖学の歴史、細胞の構造と機能の関係(4時間)	講義
3,4	組織と腺の構造、骨格の概論(4時間)	講義
5,6	筋系の概論、脈管系の成り立ちと血球の種類(4時間)	講義
7,8	神経系の概論、皮膚と感覚器系(4時間)	講義
9,10	内臓の概要と組織学概要(4時間)	講義
11-28	各論(椎骨の構造連結、関節の種類、上肢、下肢、背部、胸壁、気管、心臓)(36時間)	講義
29,30	各論胸腔の脈管と神経、腹壁の筋(4時間)	講義
31-33	各論(咽頭、視覚器、眼球の脈管、筋、神経)(6時間)	講義
34,35	各論(聴覚器の構造、平衡感覚器の構造(4時間)	講義
36	各論(舌と味蕾)(2時間)	講義
37,38	各論(脊髄、脊髄の神経路)(4時間)	講義
39,40	各論(脳、脳幹の神経核)(4時間)	講義
41,42	各論(小脳、間脳)(4時間)	講義
43,44	各論(視床、視床下部)(4時間)	講義
45	大脳の構造と皮質の機能(2時間)	講義
テキスト 参考書等	解剖学講義 ネッター解剖学アトラス 人体組織図譜	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義、演習の出席 テスト 前期は2単位分、後期は1単位分のテストをそれぞれ行い判定する。	

シラバス（前期・後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	生理学			時間数	90時間
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1年	単位数	3
担当講師	大山史朗、福本周市	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有	・ 無	経験年数
授業内容	人体の機能的な働き、各組織の関連について講義を中心に学習する。				
到達目標	理学療法士に必要な生理学全般について基本となる知識の習得				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1-3	生理学の概要(6時間)	講義
4-6	細胞、組織、DNA(6時間)	講義
7-10	骨格筋の構造と機能(8時間)	講義
11-14	末梢神経系の構造と機能(8時間)	講義
15-18	中枢神経系の構造と機能(8時間)	講義
19-22	感覚と感覚器(8時間)	講義
23-26	循環器系の構造と機能(8時間)	講義
27-30	消化器系の構造と機能(8時間)	講義
31-34	栄養と代謝(8時間)	講義
35-38	泌尿器系の構造と機能(8時間)	講義
39-42	生殖器系の構造と機能(8時間)	講義
43-45	内分泌系の構造と機能(6時間)	講義
テキスト 参考書等	PT・OT 基礎から学ぶ 生理学ノート 第2版(医歯薬出版)	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験:前半(1章—6章)で50点、後半(7章—12章)で50点。総合得点で合否を判定。 前期は2単位分、後期は1単位分テストを行い、それぞれ判定する。	

シラバス（前期・後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	運動学			時間数	90
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1	単位数	3
担当講師	① 竜田庸平、②小川哲史	取得資格	理学療法士		
		実務経験	有	経験年数	① 22②34
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人体の筋腱骨の運動 ・ 人体のバイオメカニクス(歩行、運動理論) ・ 運動学習と脳機能 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人体の運動を解剖学的知識で使って説明できる。 ・ 脳機能と運動学習過程を生理学的知識で説明できる。 ・ 正常歩行と異常歩行の違いを観察できる。 				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1,2	運動学という言葉の意味、運動学に必要な公式(4時間)	講義
3,4	運動の法則、基本肢位、面と軸(4時間)	講義
5,6	骨の種類、構造、代謝(4時間)	講義
7,8	関節の種類、構造、軸(4時間)	講義
9-11	神経の種類、構造、生理学的知識(6時間)	講義
12-14	随意運動と不随意運動、反射、姿勢制御(6時間)	講義
15,16	筋収縮の過程とエネルギー代謝(4時間)	講義
17-24	上肢の運動学(肩関節4時間、肘関節4時間、手関節4時間、手指4時間)	講義
25-30	下肢の運動学(股関節4時間、膝関節4時間、足関節4時間)	講義
31,32	体幹の運動学(4時間)	講義
33-35	骨の触診技術(6時間)	実技
36-38	腱の触診技術(6時間)	実技
39,40	正常歩行と異常歩行(4時間)	講義実技併用
41,42	運動学習と記憶(4時間)	講義
43-45	脳機能と運動学習過程(6時間)	講義
テキスト 参考書等	中村隆一;基礎運動学,医歯薬出版 中島雅美;PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート,医歯薬出版	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	実技試験小テスト 本試験 を総合して100点満点 前期は2単位分、後期は1単位分をそれぞれ100点満点で判定する。	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	人間発達学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1 年	単 位 数	1
担当講師	日高義治	取得資格	臨床心理士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	27
授業内容	人間を発達の視点からとらえ、生命の誕生から小児期・青年期・成人期を経て死に至るまでの量的・質的变化を理解する。				
到達目標	人間の発達が個体と環境との相互作用によって力動的に構成され、再構成されていく様相に注目しながら人間の共通性と特異性が考察できるようになる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	総論 第1章人間発達とは 第2章発達理論(2時間)	講義
2	第3章生涯発達の研究方法 第4章個体と環境(2時間)	講義
3	各論 第1章出生前発達と出生(2時間)	講義
4	第2章乳児・幼児前期 1 身体的発達(2時間)	講義
5	2 認知的発達(2時間)	講義
6	3 情緒的・社会的発達(2時間)	講義
7	第3章幼児前期 1 身体的発達 2 認知的発達(2時間)	講義
8	3 情緒的・社会的発達 4 乳幼児の発達評価(2時間)	講義
9	第4章学童期 1 身体 2 認知 3 知能(2時間)	講義
10	4 情緒 5 障害児の発達と支援(2時間)	講義
11	第5章青年期 1 身体 2 認知 3 情緒・社会的発達(2時間)	講義
12	4 自己概念 5 職業的同一性 6 価値観の確立と家族社会の価値規範(2時間)	講義
13	第6章成人期 1 身体 2 認知(2時間)	講義
14	3、4成人前期、中期、後期の情緒的・社会的発達(2時間)	講義
15	第7章死と死の受容 試験(2時間)	講義
テキスト 参考書等	生涯人間発達学	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席 試験	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	医学概論			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1 年	単 位 数	1
担当講師	相澤 潔	取得資格	医師		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	経験年数	4 8
授業内容	医師・看護師をはじめ、将来医療現場で働きたいと思うすべての職種の人に対して、医学がどのようにして発展してきたか、現代の医学はどのようにして成り立っているのか、何を目指しているのかということ学ぶ。				
到達目標	人間の生命が医学においていかに扱われるべきかを学び、生命の価値感を考えられるようにする。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	医学をどのようにとらえるか(2 時間)	講義
2	医学の発達のすがた(2 時間)	講義
3	健康・病気・医学の体系(2 時間)	講義
4	病気の原因(2 時間)	講義
5,6	病気による身体の変化(4 時間)	講義
7	病気の診断(2 時間)	講義
8	病気の治療とリハビリテーション(2 時間)	講義
9	病気の予防(2 時間)	講義
10	新しい医療のシステム(2 時間)	講義
11	医学および看護の生命へのアプローチ(2 時間)	講義
12-14	薬について(6 時間)	講義
15	まとめ(2 時間)	講義
テキスト 参考書等	医学概論	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席 試験	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	病理学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1 年	単 位 数	1
担当講師	山下篤	取得資格	医師		
		実務経験	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	経験年数	
授業内容	生体におこるいろいろな病変や疾患が、どんな原因で起こり(病因)、どんな変化を生じ(変性または疾患)、どのように推移し(経過)、最後にどうなるか(転帰)などのいわゆる病変や疾患の本質を理解する。				
到達目標	医療従事者に必要不可欠な病理学的知識を習得する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	「総論」 病理学の領域、細胞・組織とその障害(2時間)	講義
2	再生と修復、循環障害(2時間)	講義
3	炎症、免疫とアレルギー(2時間)	講義
4	感染症、代謝異常(2時間)	講義
5	代謝異常、老化と老年病(2時間)	講義
6	新生児の病理(2時間)	講義
7	先天異常、腫瘍(2時間)	講義
8	生命の危機(2時間)	講義
9	「各論」循環器、呼吸器系(2時間)	講義
10	歯・口腔系、消化器系(2時間)	講義
11	内分泌系、造血器系(2時間)	講義
12	腎・尿路系、生殖器・乳腺(2時間)	講義
13	脳・神経系、運動器系(2時間)	講義
14	感覚器系(2時間)	講義
15	まとめ(2時間)	講義
テキスト 参考書等	カラーで学べる病理学	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席 試験	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	臨床心理学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1 年	単 位 数	1
担当講師	安東末廣	取得資格	臨床心理士		
		実務経験	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	経験年数	
授業内容	本講義では臨床心理学の基礎的な理論や援助について事例を通して広く理解することを目的とする。				
到達目標	臨床心理学は心理的援助を必要としている人々の心理の理解とそれらの人々への心理的援助を目指している。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	生き方と脳の働き(2時間)	講義
2	知っておきたい脳の基礎(2時間)	講義
3	生き方を支える心の基本機能(2時間)	講義
4	感覚、知覚、認知、思考(2時間)	講義
5	学習、記憶、感情、欲求(2時間)	講義
6	ライフサイクルと生き方(2時間)	講義
7	身体発達の傾向(2時間)	講義
8	親子関係の変化(2時間)	講義
9	仲間関係の発達(2時間)	講義
10	家族関係の発達(2時間)	講義
11	生き方の危機(2時間)	講義
12	生き方の危機のアセスメント(2時間)	講義
13	心理アセスメント、心理テスト(2時間)	講義
14	臨床で活かすアセスメント(2時間)	講義
15	生き方の危機への支援(2時間)	講義
テキスト 参考書等	人間理解のための心理学	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席 定期試験	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	内科学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2 年	単 位 数	1
担当講師	小田竜、塚本幹夫、高木賢治	取得資格	医師		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	経験年数	20
授業内容	内科一般を講義にて学習する。				
到達目標	内科学は非常に理学療法士と関わりが深く、対象者も多い。 病態をしっかり理解し理学療法に寄与出来る人材になる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	内科学総論(2時間)	講義
2	呼吸器疾患(2時間)	講義
3	呼吸器疾患②(2時間)	講義
4	感覚、知覚、認知、思考(2時間)	講義
5	学習、記憶、感情、欲求(2時間)	講義
6	ライフサイクルと生き方(2時間)	講義
7	身体発達の傾向(2時間)	講義
8	親子関係の変化(2時間)	講義
9	仲間関係の発達(2時間)	講義
10	家族関係の発達(2時間)	講義
11	生き方の危機(2時間)	講義
12	生き方の危機のアセスメント(2時間)	講義
13	心理アセスメント、心理テスト(2時間)	講義
14	臨床で活かすアセスメント(2時間)	講義
15	生き方の危機への支援(2時間)	講義
テキスト 参考書等	人間理解のための心理学	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席 定期試験	

シラバス（前期・後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	整形外科学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2 年	単 位 数	1
担当講師	松本英裕	取得資格	医師		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	経験年数	35
授業内容	整形外科疾患の病態、治療、手術、リハビリテーションの一連の流れについて学習する。				
到達目標	病態から適切なアセスメントが出来、理学療法につなげることを目標とする。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1,2	骨細胞学等 骨の構造 骨軟骨の損傷修復と再生 神経の見方診察(4時間)	講義
3,4	脊椎(頸、胸、腰椎)疾患～解剖含む 病態・治療の説明(4時間)	講義
5,6	股関節解剖から疾患まで(4時間)	講義
7,8	脊椎解剖から疾患まで(4時間)	講義
9,10	膝関節解剖から疾患まで(4時間)	講義
11,12	上肢疾患(4時間)	講義
13,14	脊髄損傷 末梢神経障害 関節リウマチ(4時間)	講義
15	まとめ(2時間)	講義
テキスト 参考書等	標準整形外科学 プリント	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席 定期試験	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	神経内科学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2 年	単 位 数	1
担当講師	岡原一徳	取得資格	医師		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	経験年数	4 1
授業内容	脳機能、解剖を含め、神経内科で扱う疾患について学習する。				
到達目標	リハビリテーション医療に携われる専門職を目指す学生が、神経学の基礎と臨床について理解し、基本的な知識を身につけること。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1-3	総論 1. 神経解剖学の基礎 2. 神経生理学の基礎 (3 時間)	講義
	3. 神経薬理学の基礎 4. 分子遺伝学の基礎 (3 時間)	講義
4-6	神経診断学 1. 神経診断学とは 2. 各機能の診断 (3 時間)	講義
	3. 検査法 (3 時間)	講義
7	神経疾患各論 1. 脳血管障害 (2 時間)	講義
8	2. 変性疾患 (2 時間)	講義
9	3. 脱髄疾患 (2 時間)	講義
10	4. 末梢神経障害 (2 時間)	講義
11	5. 筋疾患、神経筋接合部疾患 (2 時間)	講義
12,13	6. 腫瘍 (1 時間)	講義
	7. 脊髄疾患 (2 時間)	講義
	8. 感染疾患 (1 時間)	講義
14	9. 外傷 (1 時間)	講義
	10. 自律神経疾患 (1 時間)	講義
15	11. 機能性疾患、認知症 (2 時間)	講義
テキスト 参考書等	神経内科学テキスト プリント	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席 定期試験	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	精神医学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2 年	単 位 数	1
担当講師	平賀大貴	取得資格	作業療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	経験年数	1 0
授業内容	精神疾患の病態を学習し、その治療など理解する。				
到達目標	精神疾患の概要、病態、身体所見など把握する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1,2	精神医学の基礎知識Ⅰ（歴史、多元的診断、脳の形態、心の発達、心理検査、精神患者への接し方）（4時間）	講義
3,4	精神医学の基礎知識Ⅱ（精神症状のとらえ方、よく見られる精神症状と状態像、精神科に必要な脳神経症状の知識、身体因性の精神障害、認知症）（4時間）	講義
5,6	統合失調症（4時間）	講義
7,8	知的障害と心理的発達の障害、児童青年期の行動と情緒障害（4時間）	講義
9,10	心因性の精神障害、人格障害（4時間）	講義
11,12	精神作用物質による精神と行動の障害（4時間）	講義
13,14	気分障害、摂食障害、睡眠障害（4時間）	講義
15	リエゾン、精神鑑定、精神保健法、産業精神医学、自殺、向精神薬一覧（2時間）	講義
テキスト 参考書等	精神医学テキスト プリント	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席 定期試験	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	小児科学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2 年	単 位 数	1
担当講師	岩崎直哉	取得資格	医師		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	経験年数	2 9
授業内容	小児科全般の疾患、病態等を学び、また成長と発達についても理解する。				
到達目標	成長と発達段階を学び感染症などに対して適切な対応ができるようになる。 また療育の考えのもと小児理学療法が実践できるようになる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	総論 成長と発達（2 時間）	講義
2	遺伝子と遺伝性疾患、小児保健（2 時間）	講義
3	社会小児医学、小児診断学（2 時間）	講義
4	小児のプライマリケアと救命救急医療（2 時間）	講義
5	各論 先天異常と染色体異常、先天代謝異常（2 時間）	講義
6	小児の栄養と代謝とその障害（2 時間）	講義
7	新生児、低出産体重児（2 時間）	講義
8	内分泌疾患、免疫不全症（2 時間）	講義
9	リウマチ疾患、アレルギー性疾患（2 時間）	講義
10	感染症（2 時間）	講義
11	呼吸器、血液疾患（2 時間）	講義
12	腫瘍性疾患、循環器疾患（2 時間）	講義
13	消化器疾患（2 時間）	講義
14	泌尿器疾患、神経疾患（2 時間）	講義
15	骨疾患、筋疾患、精神疾患（2 時間）	講義
テキスト 参考書等	小児科学テキスト プリント	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席 定期試験	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	口腔外科学			時間数	15
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2 年	単 位 数	1
担当講師	野間隆文	取得資格	歯科医師		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	経験年数	30
授業内容	歯および口腔の基礎的知識を習得し、摂食・嚥下障害を持っている患者さんへの運動機能の回復・改善の手助けをする理学療法士を目指し、学んでいく。				
到達目標	歯科全般の知識と摂食・嚥下に関わる機能を学び、日常生活動作につなげていく。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	歯、口腔の基礎的知識(2時間)	講義
2	摂食・嚥下障害者の評価法・調理・食事指導の現状と問題点(2時間)	講義
3	摂食・嚥下のメカニズム(2時間)	講義
4	要介護高齢者の摂食能力と摂食状況・機能障害状況(2時間)	講義
5	摂食・嚥下と温度ならびに味覚情報(2時間)	講義
6	食物の物性は味蕾にどう影響するのか(2時間)	講義
7	摂食・嚥下障害に対する栄養調理の対応(2時間)	講義
8	摂食・嚥下障害に対する評価と食事指導の実際・まとめ(1時間)	講義
テキスト 参考書等	プリント	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席 定期試験	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	眼科学			時間数	15
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2 年	単 位 数	1
担当講師	森 継則	取得資格	医師		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	経験年数	33
授業内容	眼科学における、視器の構造、光学の基礎ならびに各種検査や、個々の疾患について学習し、理学療法士として医療に参加する際の知識を習得する。				
到達目標	視野の障害、眼球の運動、脳神経の機能について評価ができるようになる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	眼科概論、視器の構造、解剖(2時間)	講義
2	光学の基礎、屈折、調節とその異常(2時間)	講義
3	視機能(視力、視野、眼球運動)(2時間)	講義
4	眼科用薬剤(2時間)	講義
5	眼疾患(前眼部)(2時間)	講義
6	眼疾患(中間透光体)(2時間)	講義
7	眼疾患(眼底)(2時間)	講義
8	眼科検査及び復習(1時間)	講義
テキスト 参考書等	眼科コ・メディカルのための眼科学ガイド プリント	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席 定期試験	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	公衆衛生学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2 年	単 位 数	1
担当講師	竹内昌平	取得資格			
		実務経験	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	経験年数	
授業内容	我が国の健康像の現状、健康を保持増進させるための制度や保健活動、および環境とヒト集団の健康像との関わり合いについて学ぶ。				
到達目標	理学療法士として公衆衛生的視点を持って医学の道にすすめるようになる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	公衆衛生の概念(2時間)	講義
2	健康教育とヘルスプロモーション(2時間)	講義
3	健康と環境・疫学的方法(2時間)	講義
4	健康の指標(2時間)	講義
5	感染症とその予防(2時間)	講義
6	食品保健と栄養(2時間)	講義
7	生活環境の保全(1)(2時間)	講義
8	生活環境の保全(2)(2時間)	講義
9	医療の制度(2時間)	講義
10	地域保健活動(2時間)	講義
11	母子保健(2時間)	講義
12	学校保健(2時間)	講義
13	生活習慣病・難病(2時間)	講義
14	精神保健福祉(2時間)	講義
15	産業保健(2時間)	講義
テキスト 参考書等	わかりやすい公衆衛生学 プリント	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席 定期試験	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	障害学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	平島 陽子	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	21
授業内容	健常歩行に関する客観的な知識と歩行のメカニズムを理解する。				
到達目標	1. 基本的な力学や歩行周期各相の役割を理解する。 2. 健常歩行における各関節の筋活動および機能、関節運動を理解する。 3. 異常歩行の特徴と原因を学習する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	健常歩行における基本的力学、総論（2時間）	講義
2	歩行周期、歩幅、歩隔（2時間）	講義
3	歩行周期における用語の説明（2時間）	講義
4	歩行周期各相の特徴と役割（2時間）	講義
5	歩行速度とケーススタディ（2時間）	講義
6	小児と高齢者の健常歩行、歩行と走行の違い（2時間）	講義 実技併用
7	健常歩行における下肢・体幹の役割（2時間）	講義
8	歩行における各関節の詳細－距腿関節とMTP関節（2時間）	講義
9	歩行における各関節の詳細－距骨下関節（2時間）	講義
10	歩行における各関節の詳細－膝関節（2時間）	講義
11	歩行における各関節の詳細－股関節と骨盤（2時間）	講義
12	歩行における各関節の詳細－体幹と上肢（2時間）	講義
13	ケーススタディ（2時間）	講義 実技併用
14	ケーススタディ（2時間）	講義 実技併用
15	ケーススタディ（2時間）	講義 実技併用
テキスト 参考書等	観察による歩行分析：医学書院 （訳 月城慶一 山本澄子 江原義弘 盆子原秀三）	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 100点	

シラバス（前期・後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	老年学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2 年	単 位 数	1
担当講師	田代 学	取得資格	医師		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	経験年数	39
授業内容	高齢者の特徴、ならびに心身機能について学習し、介護予防や認知機能低下について学ぶ。				
到達目標	認知症予防、介護予防が実践できるよう知識を習得する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	老年医学の理解(2時間)	講義
2	高齢者の健康問題(2時間)	講義
3	老人像(2時間)	講義
4	老年医療の特性(2時間)	講義
5	高齢者の健康評価(2時間)	講義
6	一般的老年医療(2時間)	講義
7	緩和ケア(2時間)	講義
8	高齢者の脆弱化(2時間)	講義
9	認知症(2時間)	講義
10	うつ(2時間)	講義
11	心不全(2時間)	講義
12	心臓、血管疾患(2時間)	講義
13	呼吸器疾患(2時間)	講義
14	終末期(2時間)	講義
15	栄養(2時間)	講義
テキスト 参考書等	臨床老年医学入門 プリント	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席 定期試験	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	リハビリテーション医学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1 年	単 位 数	1
担当講師	鈴木幹次郎	取得資格	医師		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	経験年数	27
授業内容	リハビリテーションの歴史や医療の中での発展、また各疾患からのリハの評価および治療までの流れを学ぶ。				
到達目標	リハビリテーションが医療の中で必要となった背景から現在に至るまでを理解する。また各論においては疾患と病態、そして障害について全体像を掴む。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	リハビリテーション医学総論(2時間)	講義
2	リハビリテーション医学 1(2時間)	講義
3	リハビリテーション医学 2(2時間)	講義
4	脳疾患 1(2時間)	講義
5	脳疾患 2(2時間)	講義
6	脊髄疾患(2時間)	講義
7	リウマチ性疾患、関節疾患(2時間)	講義
8	小児疾患(2時間)	講義
9	神経・筋疾患(2時間)	講義
10	外傷、脊椎疾患(2時間)	講義
11	内部疾患(2時間)	講義
12	末梢循環障害・切断(2時間)	講義
13	高齢者のリハビリテーション(2時間)	講義
14	総括(2時間)	講義
15	まとめ(2時間)	講義
テキスト 参考書等	リハビリテーション医学テキスト プリント	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席 定期試験	

シラバス（前期・~~後期~~）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	リハビリテーション概論			時間数	30時間
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1年	単位数	1
担当講師	大山史朗	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有	・ 無	経験年数
授業内容	リハビリテーションの意義や方法について講義を中心に学習する。				
到達目標	理学療法士に必要なリハビリテーションの概念に関する知識の習得				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	リハビリテーションの成り立ちと意義(2時間)	講義
2	リハビリテーションの5領域(2時間)	講義
3	リハビリテーション医学(2時間)	講義
4	健康と疾病と障害(2時間)	講義
5	ウェルビーイングとハピネス(2時間)	講義
6	運動機能のみかた(2時間)	講義
7	ADLとQOL(2時間)	講義
8	ストレスと現代病(2時間)	講義
9	患者の心理と行動変容(2時間)	講義
10	高齢者とリハビリテーション(2時間)	講義
11	スポーツとリハビリテーション(2時間)	講義
12	災害とリハビリテーション(2時間)	講義
13	リハビリテーションに必要な評価学(2時間)	講義
14	リハビリテーションに必要な治療学(2時間)	講義
15	リハビリテーションに関わる職種とチーム(2時間)	講義
テキスト 参考書等	学生のためのリハビリテーション概論第3版(医歯薬出版)	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 100点	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	地域包括ケア概論			時間数	30時間
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2年	単位数	2
担当講師	小川 哲史	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	18
授業内容	講義形式				
到達目標	2025年には団塊の世代が75歳以上となり世界に例を見ない高齢者の多い世界となる。制度を学び生き生きと安全に暮らせる社会を目指していく。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	地域包括ケアとは(2時間)	講義
2	地域支援事業について学ぶ(2時間)	講義
3	地域ケア会議とは(2時間)	講義
4	地域ケア会議の助言者になるために(2時間)	講義
5	地域の社会資源(2時間)	講義
6	行政との関わり(2時間)	講義
7	地域包括支援センター(2時間)	講義
8	広域でみていく(2時間)	講義
9	福祉制度(2時間)	講義
10	在宅支援をするために(2時間)	講義
11	訪問リハビリテーション(2時間)	講義
12	通所リハビリテーション(2時間)	講義
13	ケアプランの作成(2時間)	講義
14	担当者会議とは(2時間)	講義
15	まとめ(2時間)	講義
テキスト 参考書等	プリント	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	テスト100点	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	理学療法概論 I			時間数	60
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1	単位数	2
担当講師	本田隆広	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	27
授業内容	リハビリテーション専門職の中でも理学療法の意義を学ぶため基本的な用語や機器に触れ学ぶ。				
到達目標	理学療法とは何かを理解し、理学療法士となるための基本的な姿勢、実技手技、職域、職能など専門職としての役割等を学ぶ。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1-8	理学療法士の適正について学ぶ(16時間)	講義
9-11	理学療法の歴史(6時間)	講義
12-14	理学療法士の身分、職域(6時間)	講義
15,16	身体機能障害について(4時間)	講義
17-19	理学療法評価とは(6時間)	講義
20	ICHD、ICF について(2時間)	講義
21	疾患別理学療法の紹介(中枢疾患)(2時間)	講義
22	疾患別理学療法の紹介(運動器疾患)(2時間)	講義
23	疾患別理学療法の紹介(内部障害疾患)(2時間)	講義
24	疾患別理学療法の紹介(小児疾患)(2時間)	講義
25	疾患別理学療法の紹介(特定疾患)(2時間)	講義
26	理学療法の実際(2時間)	講義
27	世界の理学療法(2時間)	講義
28	理学療法と政策(2時間)	講義
29,30	基本的理学療法実技(4時間)	講義
テキスト 参考書等	理学療法概論テキスト(南江堂)	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	テスト 100 点	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	理学療法概論Ⅱ			時間数	60
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1	単位数	2
担当講師	小川哲史	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	34
授業内容	理学療法における運動療法の紹介。 職域と職能について 医療保険・介護保険制度等を知る。				
到達目標	理学療法士の身分や現在の立場、社会の中での活動を知る。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1,2	理学療法機器(4時間)	講義
3,4	理学療法機器の変遷(4時間)	講義
5,6	認定・専門理学療法士(4時間)	講義
7,8	理学療法士協会について(4時間)	講義
9,10	理学療法治療戦略(4時間)	講義
11,12	診療録(4時間)	講義
13,14	訪問リハビリテーション(4時間)	講義
15,16	通所リハビリテーション(4時間)	講義
17,18	医療保険(4時間)	講義
19,20	介護保険(4時間)	講義
21,22	身体障害者手帳・申請(4時間)	講義
23,24	理学療法の実際(4時間)	講義
25,26	研究(4時間)	講義
27,28	政治と理学療法(4時間)	講義
29,30	基本動作実技(4時間)	講義
テキスト 参考書等	理学療法概論テキスト(南江堂)	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	テスト	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	理学療法セミナー（卒試験）			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	3	単位数	1
担当講師	① 小園邦博 ② 永野幸四郎 ③ 上田健一	取得資格	① ②理学療法士 ③ 作業療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	経験年数	① 31 ② 25 ③ 18
授業内容	国家試験対策として、主に精神、呼吸器、脊髄損傷の理学療法分野に対して、外部講師によるセミナーを行う 3年間の復習を実施し、卒業判定の一助とする。				
到達目標	基本的理学療法を獲得できる 理学療法士国家試験に合格できる				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1-5	装具学分野(10時間)③	講義
6-9	呼吸器理学療法分野(8時間)②	講義
10-15	脊髄損傷理学療法分野(12時間)①	講義
テキスト 参考書等	国家試験対策資料全般	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	臨床運動学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2	単位数	1
担当講師	落合 錠、岩田 昌	取得資格	理学療法士		
		実務経験	有	経験年数	落合 14 岩田 13
授業内容	・正常動作分析 ・各疾患別動作分析 ・臨床現場での患者のみかた				
到達目標	・正常な動作ならびに各疾患に起因する動作の分析ができる。 ・運動学・力学用語に慣れて、教科書や文献を理解できる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	姿勢・動作を理解するための運動力学(岩田)2時間	講義
2	運動力学の基礎～姿勢・動作の生体力学(岩田)2時間	講義
3	姿勢と保持(落合)2時間	講義
4	正常動作～起き上がり動作、寝返り動作と床からの立ち上がり、椅子からの立ち上がり動作(落合)2時間	講義
5	高齢者の姿勢・動作の特徴と分析(岩田)2時間	講義
6	脳血管障害後片麻痺の姿勢・動作の特徴と分析(岩田)2時間	講義
7	半側無視を有する脳血管障害後片麻痺の姿勢・動作の特徴と分析(落合)2時間	講義
8	対麻痺・四肢麻痺の姿勢・動作の特徴と分析(落合)2時間	講義
9	パーキンソニズムの姿勢・動作の特徴と分析(岩田)2時間	講義
10	運動失調の姿勢・動作の特徴と分析(岩田)2時間	講義
11	脳性麻痺の姿勢・動作の特徴と分析(落合)2時間	講義
12	変形性膝関節症の術前・術後の姿勢・動作の特徴と分析(落合)2時間	講義
13	変形性股関節症の術前・術後の姿勢・動作の特徴と分析(岩田)2時間	講義
14	下肢切断・義足使用の姿勢・動作の特徴と分析(岩田)2時間	講義
15	スポーツ動作の特徴と分析、まとめ(落合)2時間	講義

テキスト 参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学 ・基礎バイオメカニクス
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中に流れる患者様の動画は撮影しないこと、講師の許可があれば撮影・録音することを可とする ・実技を実施する場合があるため、厚着をせずに動きやすく、骨指標がみえやすい服装で参加すること ・わからないことがあれば積極的に質問してその場で解決すること。わからないことを共有すると学生全体の理解度が高まる。 ・成績は期末テスト、小テスト等により総合的に判断する ・小テストは毎講義の最初に実施し、前回の講義内容から出題する ・評価方法は期末テストの点数を主体とし、加点として小テストの成績や出席状況を考慮する

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	理学療法管理学			時間数	30時間
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2年	単位数	2
担当講師	酒井隼	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	15
授業内容	理学療法士として職務に対する考え方、ふるまい、態度など社会人としての基礎を学ぶ。倫理、管理、規範などを学習する。				
到達目標	社会人になるにあたって、特に専門職としてふさわしい人材になるよう資質を向上する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	社会人、医療人の考え方(2時間)	講義
2	医療職、理学療法専門職の立場、ふるまい(2時間)	講義
3,4	憲法と人権(4時間)	講義
5	倫理と研鑽(2時間)	講義
6	医療法について(2時間)	講義
7	理学療法士作業療法士法(2時間)	講義
8,9	職能団体について考える(4時間)	講義
10,11,12	学術活動と職能活動について・研究活動(6時間)	講義
13	社会貢献、地域貢献・診療報酬(2時間)	講義
14	介護報酬・管理職とは(2時間)	講義
15	病院、クリニックマネジメント(2時間)	講義
テキスト 参考書等	理学療法管理学(南江堂)	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	テスト 100点	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	理学療法評価概論			時間数	60
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1	単位数	2
担当講師	柏木俊彦	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	26
授業内容	① テキストをもとに、実際に学生が評価を実践し知識・技術を学び身に付ける。 ② 理学療法評価を行う上で必要な心構え・態度を学ぶ				
到達目標	評価の一連の流れを理解しそれらを信頼性のある技術レベルで実施できることが必要不可欠である。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	評価の意義・目的 2時間	講義
2,3	トップダウン・ボトムアップについて 4時間	講義
4,5	患者の一般的情報・診断情報・診療記録について 4時間	講義
6,7	検査測定機器・評価環境・評価上の留意点 4時間	講義
8,9	形態測定・四肢周径の意義・目的 注意事項 4時間	講義
10-12	形態測定(実技) 6時間	講義
13-15	四肢周径(実技) 6時間	講義
16-22	関節可動域測定意義・目的(上肢・下肢・手関節・手指・実技) 14時間	講義
23,24	痛みの評価・手順(VAS・10段階ペインスケール・表情評価スケール) 4時間	講義
25,29	MMT(下肢) 10時間	講義
30	まとめ 2時間	講義
テキスト 参考書等	理学療法評価学 金原出版	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	実技試験 筆記試験 口述試験	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	検査測定・画像			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	岩下昌司	取得資格	診療放射線技師		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	18年
授業内容	レントゲン画像やCT、MRIの読影を中心に、解剖学的な比較をしながら学習する。				
到達目標	理学療法士国家試験問題レベルに到達する。 患者の画像をもとに症状の推察ができる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	レントゲン画像の基本 2時間	講義
2	レントゲン画像の読影(上肢)2時間	講義、実技
3	レントゲン画像の読影(下肢)2時間	講義、実技
4	レントゲン画像の読影(体幹)2時間	講義、実技
5	CT画像の基本 2時間	講義
6	CT画像の読影(頭部)2時間	講義、実技
7	CT画像の読影(体幹)2時間	講義、実技
8	MRT画像の基本 2時間	講義
9	MRT画像の読影(上肢)2時間	講義、実技
10	MRT画像の読影(体幹)2時間	講義、実技
11	MRT画像の読影(下肢)2時間	講義、実技
12	MRT画像の読影(脊椎)2時間	講義、実技
13	MRT画像の読影(頭部)2時間	講義、実技
14	MRT画像の読影(国家試験対策)2時間	講義、実技
15	まとめとテスト対策 2時間	講義
テキスト 参考書等	画像診断(医歯薬出版)	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	テスト100点満点	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	理学療法中枢評価			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2	単位数	1
担当講師	小川哲史	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	34
授業内容	① 主に脳血管疾患、パーキンソン病、脊髄損傷について病態を理解する。 ② 筋緊張、深部腱反射などの解釈や理解を図る。				
到達目標	① 中枢神経の病態によって起こりうる症状を理解する。 ② 運動器疾患との区別ができるようになる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	知覚検査の基礎。2H	講義
2	知覚検査の基礎。2H	講義
3	知覚検査実技。2H	講義
4	深部腱反射。2H	講義
5	バランス検査。2H	講義
6	筋トーン検査。2H	講義
7	実技試験。2H	講義
8	実技試験。2H	講義
9	協調性検査。2H	講義
10	協調性検査。2H	講義
11	片麻痺機能検査。2H	講義
12	脳神経検査。2H	講義
13	高次脳機能検査。2H	講義
14	実技試験。2H	講義
15	実技試験。2H	講義
テキスト 参考書等	理学療法評価学 配布プリント	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 実技テスト	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	理学療法運動器評価			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1 年	単 位 数	1
担当講師	本田隆広	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	経験年数	27
授業内容	① 最初にスポーツ理学療法に関連する内容を学ぶ。 ② 運動器関連疾患の検査、測定を中心に学ぶ。 ③ 検査・測定、画像の講義から1ステップ進んだ内容を実施する。				
到達目標	① 運動器疾患の概要を理解する。 ② 必要に応じた検査項目が、半分程度は表記できる。 ③ 2年次の運動器理学療法へとつながるようにする。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	スポーツ外傷における運動器疾患と評価の意義。1H	講義
	関節弛緩性テスト、筋柔軟性テストの実施。1H	講義
2	靭帯損傷の評価（足関節、膝関節靭帯）。2H	講義
3	股関節の検査・測定（関節可動域、筋機能、整形外科的テスト）。2H	講義
4	膝関節の検査・測定（関節可動域、筋機能、整形外科的テスト）。2H	講義
5	体幹の検査・測定（関節可動域、筋機能、整形外科的テスト）。2H	講義
6,7	反射検査の意味。中枢神経と末梢神経。4H	講義
8	痛みの定義。痛みの検査。2H	講義
9	マッスルインバランスの概論。2H	講義
10,11	マッスルインバランスの評価。4H	講義
12,13	肩関節疾患の検査・測定。4H	講義
14	下肢骨折後の評価。2H	講義
15	上肢骨折後の評価。2H	講義
テキスト 参考書等	スポーツ理学療法、理学療法評価学、その他 配布プリント	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	定期試験 小テスト 学習レポート	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	理学療法小児評価			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2	単位数	1
担当講師	竜田 庸平	取得資格	理学療法士		
		実務経験	有	経験年数	22
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳画像と理学療法評価 ・ 神経筋促通法 ・ 脳性麻痺の理学療法 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ MRIやCTの脳画像と障害読影ができる。 ・ 神経筋促通法の概念が理解できる。 ・ 脳性麻痺の理学療法評価と治療が理解できる。 				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	運動麻痺の脳画像(2時間)	講義
2	感覚麻痺の脳画像(2時間)	講義
3,4	高次脳機能障害の脳画像(4時間)	講義
5	神経筋促通法演習(2時間)	講義、実技
6	小児の発達(2時間)	講義
7	発達評価(2時間)	講義、実技
8,9	脳性麻痺の病態(4時間)	講義
10-13	脳性麻痺の理学療法(痙直型 4時間、アテトーゼ型 2時間、その他 2時間)	講義
14	筋ジストロフィーの評価と理学療法(2時間)	講義、実技
15	ダウン症の評価と理学療法(2時間)	講義
テキスト 参考書等	奈良勲：標準理学療法学,医学書院 松澤正：理学療法評価学,金原出版 前田眞治：脳画像,医学書院 田原弘幸：テキスト,南江堂	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	実技試験(触診技術 2点) 本試験(80点)	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	運動療法学 I			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	柏木俊彦	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	26
授業内容	①運動器系の生理・病理・修復過程の基礎的原理を学ぶ ②関節可動域訓練・筋力増強法・基本動作訓練等の具体的方法を学ぶ				
到達目標	この講義では、基本的な主義について、その理論が理解でき、実際に手技が実行できるようになることを目標とする。成果としては、この運動障害について説明ができその障害の対しての評価・治療方法について考える事ができる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1,2	運動療法歴史・概念・定義 4時間	講義実技
3,4	運動療法基礎 結合組織・関節の構造と機能 4時間	講義実技
5,6	骨格筋の構造と機能について・筋線維の種類と特性 4時間	講義実技
7	組織の修復課程・関節・筋組織・軟骨の修復について 2時間	講義実技
8	関節可動域訓練、エンドフィール(実技) 2時間	講義実技
9	強直・拘縮について 2時間	講義実技
10	浮腫・痛みについて 2時間	講義実技
11	運動療器械の基本的な考え方について 2時間	講義実技
12,13	基本的運動(他動運動・自動運動) 4時間	講義実技
14,15	筋収縮・筋弛緩による分類 4時間	講義実技
テキスト 参考書等	運動療法 I 神陵文庫 河元岩男	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	運動療法学Ⅱ			時間数	60
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2	単 位 数	2
担当講師	速見 弥央	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	21
授業内容	運動器障害に関連する疾患の病態や症状について理解し、理学療法の流れを理解する。運動療法の基本的な治療が行えることを目標とする。				
到達目標	1. 基本的な運動療法と理論的背景について理解する。 2. 運動療法の適応とリスク管理について理解する。 3. 運動療法の流れを理解し、実践できる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1-3	骨折・脱臼の運動療法：骨折の基礎知識（分類、症状、合併症、診断、骨癒合の過程、治療の原則）、運動療法（ROM運動、筋力増強運動、荷重練習、ポジショニング） 6時間	講義実技
4-7	大腿骨頸部骨折の理学療法 8時間	講義実技
8-11	変形性股関節症の運動療法（保存療法、人工股関節置換術後の理学療法） 8時間	講義実技
12-15	変形性膝関節症の運動療法（保存療法、人工膝関節置換術後の理学療法） 8時間	講義実技
16-19	膝靭帯・半月板損傷の理学療法 8時間	講義実技
20-23	肩関節疾患の運動療法 8時間	講義実技
24-27	腰部・脊椎疾患の理学療法（腰痛症、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、側弯症）8時間	講義実技
28-30	関節リウマチの運動療法 6時間	講義実技
テキスト 参考書等	加藤浩：運動器障害理学療法学，メディカルビュー社	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験、実技試験	

シラバス（前期・後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	神経理学療法学			時間数	60
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2	単 位 数	2
担当講師	速見 弥央	取得資格	理学療法士		
		実務経験	有	経験年数	21
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> 神経障害をもたらす疾患（脳血管障害、神経変性疾患、神経筋疾患）における病態、症状を理解し、症状に応じた理学療法の考え方と理学療法プログラムの流れを理解する。 基本的な治療プログラムの立案と実施、リスク管理ができることを目標とする。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 神経障害に対する病態や症状が理解できる。 神経障害に対する理学療法の流れを理解し、実践できる。 				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1,2	中枢神経の構造と機能（4時間）	講義実技
3,4	脳血管障害の病態と治療（4時間）	講義実技
5,6	脳卒中急性期の運動療法：座位練習（4時間）	講義実技
7,8	脳卒中回復期の運動療法：寝返り起き上がり練習、立ち上がり歩行練習（4時間）	講義実技
9,10	高次脳機能障害の理学療法（4時間）	講義実技
11,12	頭部外傷の理学療法（4時間）	講義実技
13	脊髄損傷の理学療法（2時間）	講義実技
14	神経筋疾患総論（2時間）	講義実技
15,16,17	パーキンソン病（6時間）	講義実技
18,19	脊髄小脳変性症；運動失調症の理学療法（4時間）	講義実技
20,21	筋萎縮性側索硬化症の理学療法（4時間）	講義実技
22,23	多発性硬化症の理学療法（4時間）	講義実技
24,25	ギラン・バレー症候群、重症筋無力症の理学療法（4時間）	講義実技
26,27	末梢神経障害の理学療法：胸郭出口症候群（4時間）	講義実技
28,29,30	ケーススタディ（6時間）	講義実技
テキスト 参考書等	鈴木俊明；神経障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ，メジカルビュー社	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験、実技試験	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	小児理学療法学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2	単位数	1
担当講師	竜田庸平、松澤恵美	取得資格	理学療法士		
		実務経験	有	経験年数	22
授業内容	・ 脳性麻痺の理学療法（病態、経過、治療）				
到達目標	・ 脳性麻痺の理学療法の流れが理解できる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	脳の解剖学と生理学（大脳：2時間）	講義実技
2	脳の解剖学と生理学（大脳基底核：2時間）	講義実技
3	脳の解剖学と生理学（小脳：2時間）	講義実技
4	脳の解剖学と生理学（脳幹：2時間）	講義実技
5	脳の解剖学と生理学（脊髄と末梢神経：2時間）	講義実技
6	脳血管疾患の理学療法の流れ（急性期から慢性期まで2時間）	講義実技
7	脳血管疾患の理学療法の考え方（2時間）	講義実技
8	運動麻痺の評価（病態2時間）	講義実技
9	感覚麻痺の評価（病態1時間、感覚検査1時間）	講義実技
10	小脳障害の評価（病態1時間、失調評価1時間）	講義実技
11	運動麻痺の理学療法（基礎1時間、実技1時間）	講義実技
12	感覚麻痺の理学療法（基礎1時間、実技1時間）	講義実技
13	小脳障害の理学療法（基礎1時間、実技1時間）	講義実技
14	高次脳機能障害の評価と生活改善（基礎1時間、実技1時間）	講義実技
15	脳性麻痺の理学療法の流れ（2時間）	講義実技
テキスト 参考書等	奈良勲：標準理学療法学,医学書院 松澤正：理学療法評価学,金原出版 前田眞治：脳画像,医学書院	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	実技試験（20点） 本試験（80点）	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	呼吸理学療法学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	佐藤萌都子、前田洋希	取得資格	認定理学療法士		
		実務経験	有	経験年数	佐藤 15 前田 15
授業内容	・ 呼吸器疾患の病態および理学療法を学ぶ				
到達目標	内科系疾患、外科系疾患、急性期、慢性期を問わずまた新生児までと様々な患者が対象となる。運動と呼吸・循環反応を学び疾患によりどのような問題が生じるかを理解する。ならびに評価、技術を習得する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	呼吸理学療法総論(2時間)	講義実技
2	呼吸器の解剖運動学(2時間)	講義実技
3	呼吸器の生理(2時間)	講義実技
4	呼吸不全の病態と呼吸器疾患(2時間)	講義実技
5	呼吸理学療法評価、フィジカルアセスメント(2時間)	講義実技
6	呼吸理学療法評価、その他の評価(2時間)	講義実技
7	コンディショニング(2時間)	講義実技
8	排痰法、手技(2時間)	講義実技
9	呼吸困難改善のための手技(2時間)	講義実技
10	運動療法(2時間)	講義実技
11	酸素療法(2時間)	講義実技
12	人工呼吸療法(2時間)	講義実技
13	慢性呼吸不全(2時間)	講義実技
14	急性呼吸不全(2時間)	講義実技
15	吸引(2時間)	講義実技
テキスト 参考書等	内部障害理学療法学呼吸、中山書店	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	実技試験(20点) 本試験(80点)	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	循環器理学療法学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	三秋 拓郎	取得資格	理学療法士		
		実務経験	有	経験年数	18
授業内容	循環器疾患の病態および治療に対する知識を理解する。理学療法における評価・治療の要点と理論的背景、リスク管理について学ぶ。				
到達目標	循環器疾患の病態を理解しリスク管理に基づいたリハビリテーションが実践できるようになる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	循環器系および腎臓の構造と機能（2時間）	講義実技
2	心電図・不整脈の診かた（2時間）	講義実技
3	エネルギー代謝と栄養（2時間）	講義実技
4	運動耐用能とその評価（2時間）	講義実技
5	病態・検査と治療 虚血性心疾患（2時間）	講義実技
6	病態・検査と治療 心臓弁膜症と心筋症（2時間）	講義実技
7	病態・検査と治療 大動脈および末梢動脈疾患（2時間）	講義実技
8	病態・検査と治療 心不全（2時間）	講義実技
9	糖尿病の病態・検査と治療 合併症（2時間）	講義実技
10	腎疾患・腎機能障害と心血管疾患（2時間）	講義実技
11	心臓・腎臓リハビリテーション総論（2時間）	講義実技
12	心・腎血管疾患および糖尿病患者の評価（2時間）	講義実技
13	心血管理学療法の実際（2時間）	講義実技
14	糖尿病に対する理学療法の実際（2時間）	講義実技
15	まとめ（2時間）	講義実技
テキスト 参考書等	理学療法テキスト循環、中山書店	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 100点	

シラバス（前期・後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	運動器理学療法学			時間数	90
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2 年	単 位 数	3
担当講師	本田隆広	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	27
授業内容	① 運動器疾患の病態、症状に対して知識を養う。 ② 各種運動療法の適応や方法を学ぶ。				
到達目標	① 各種検査・測定を基盤の上に、理学療法の評価の重要性に気付ける。 ② 各種疾患、治療時期に応じた理学療法が理解できるようになる。 ③ リスク管理に対して、何故そのような対応が必要となるのかを分かるようになる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1-3	膝・下腿骨骨折(636p～638p)症例レポートからの展開(6時間)	講義実技
4-6	膝・下腿骨骨折(168p～189p)、骨折の分類、骨折名の学習、免荷の必要性(6時間)	講義実技
7-9	足関節捻挫(656p～658p)症例レポートからの展開(6時間)	講義実技
10-12	足部・足関節疾患の病態。運動学や機能テストの理解(6時間)	講義実技
13-15	橈骨遠位端骨折(630p～632p)症例レポートからの展開(6時間)	講義実技
16-18	橈骨遠位端骨折、手根管症候群の病態。握力と対立動作機能の理解(6時間)	講義実技
19-21	肩関節周囲炎(645p～647p)症例レポートからの展開(6時間)	講義実技
22-24	肩関節周囲炎、肩腱板損傷の病態。各種運動療法の理解と実施(6時間)	講義実技
25-27	膝関節疾患(651p～655p)症例レポートからの展開(6時間)	講義実技
28-30	膝靭帯損傷後の機能テスト、運動療法の理解と実施(6時間)	講義実技
31-33	変形性股関節症(639p～641p)症例レポートからの展開(6時間)	講義実技
34-36	変形性膝関節症(642p～844p)症例レポートからの展開(6時間)	講義実技
37-39	姿勢観察と関節機能テスト、筋機能テストの理解と実施(6時間)	講義実技
40-42	腰部疾患(非特異的、神経根症、脊椎圧迫骨折)の理解。骨盤周囲トレーニング(6時間)	講義実技
43-45	理学療法プログラムの立案について(6時間)	講義実技
テキスト 参考書等	crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学 理学療法評価学、病気がみえる⑩運動器・整形外科 徒手筋力検査(MMT)	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	学習ノート提出、小テスト 筆記試験 前期2単位分後期1単位分それぞれテストを100点満点で行う。	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	内部障害理学療法学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	速見 弥央	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	21
授業内容	糖尿病とその合併症、がんについて、における、運動処方の実際について理解する。				
到達目標	1. 糖尿病と合併症の病態について理解する。 2. 糖尿病、腎疾患、がんについて運動療法の適応、リスク管理について理解する。 3. 各疾患の理学療法評価・治療プログラムの立案、運動療法の実施ができる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	糖尿病総論(糖尿病の疫学と理学療法の関わり、病態と分類)(2時間)	講義実技
2	内分泌について(自律神経、ホルモン)(2時間)	講義実技
3	血糖値について(血糖変動メカニズム、病態と合併症)(2時間)	講義実技
4	糖尿病の治療法(食事療法・運動療法・薬物療法、栄養とエネルギー代謝、薬物の作用と副作用)(2時間)	講義実技
5	糖尿病の運動療法(適応と禁忌、運動の効果、運動の種類・運動強度・頻度・実施時間、リスク管理)(2時間)	講義実技
6	糖尿病の合併症に対する運動療法(運動の適応と運動強度、フットケア等)(2時間)	講義実技
7	腎疾患に対する理学療法(2時間)	講義実技
8	がんのリハビリテーション(2時間)	講義実技
9-15	ケーススタディ(14時間)	講義実技
テキスト 参考書等	高橋哲也：内部障害理学療法学．医歯薬出版株式会社 医療情報科学研究所：病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌，第4版．メディックメディア	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	スポーツ理学療法学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1 年	単 位 数	1
担当講師	常盤 直孝	取得資格	理学療法士		
		実務経験	有	・ 無	経験年数
授業内容	スポーツ分野の理学療法士の活動について、急性期からアスレティックリハビリテーションまで理学療法士がどのようにかかわり、活動しているかを学ぶ。				
到達目標	スポーツ分野での理学療法士のかかわりを知り、スポーツ現場で実践出来るようになる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	スポーツ理学療法総論（歴史・クリニカルリーズニング）（2時間）	講義
2	スポーツ医学の基礎知識（応急処置、アンチドーピング）（2時間）	講義
3	アスレティックリハビリテーション（概論、テーピング、ストレッチング）（2時間）	講義実技
4	運動器理学療法のとらえ方（2時間）	講義実技
5	部位別スポーツ障害（肩関節）（2時間）	講義実技
6	部位別スポーツ障害（膝関節）（2時間）	講義実技
7	部位別スポーツ障害（股関節）（2時間）	講義実技
8	部位別スポーツ障害（足部・足関節）（2時間）	講義実技
9	部位別スポーツ障害（腰部）（2時間）	講義実技
10	スポーツ障害各論野球・バレー（2時間）	講義実技
11	スポーツ障害各論陸上競技・サッカー（2時間）	講義実技
12	スポーツ障害各論柔道・剣道・弓道（2時間）	講義実技
13	スポーツ障害各論バスケットボール・ハンドボール（2時間）	講義実技
14	スポーツ障害各論ラグビー・テニス（2時間）	講義実技
15	スポーツ障害各論体操競技・競泳（2時間）	講義実技
テキスト 参考書等	スポーツ理学療法学（メジカルビュー社） アスレティックリハビリテーションガイド（文光堂）	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席 定期試験	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	物理療法			時間数	60
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2 年	単 位 数	1
担当講師	平島 陽子 中原 寿志	取得資格	理学療法士	経験年数	21 年 17 年
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無		
授業内容	理学療法の中の物理療法とは何か理解する。 物理療法の概論・各論を理解する。 物理療法を理学療法場面での臨床応用について理解する。				
到達目標	1. 生体に及ぼす物理的エネルギーの臨床的効果について理解する。 2. 理学療法対象者に対し最も適切な物理療法を選択できる。 3. 運動療法との併用で得られる治療効果と、物理療法の重要性を理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1,2	物理療法学、電気刺激療法総論（4 時間）	講義実技
3,4	温熱療法総論、経皮的電気刺激（TENS）（4 時間）	講義実技
5,6	温熱療法、神経筋電気刺激（NMES）（4 時間）	講義実技
7,8	干渉電流療法（IFCS）（4 時間）	講義実技
9-12	超音波療法、機能的電気刺激（FES）（8 時間）	講義実技
13,14	末梢神経電気刺激療法（PNS）、微弱電流刺激療法（MES）（4 時間）	講義実技
15,16	寒冷療法、筋電図バイオフィードバック療法（4 時間）	講義実技
17-19	水治療法、牽引療法（6 時間）	講義実技
20	振動刺激療法（2 時間）	講義実技
21-23	光線療法総論、衝撃波療法（6 時間）	講義実技
24-26	光線療法、ロボットリハビリテーション（6 時間）	講義実技
27-30	物理療法の臨床応用、ケーススタディ（8 時間）	講義実技
テキスト 参考書等	Crosslink 理学療法学テキスト／物理療法学：メジカルビュー社 （編集 吉田英樹）	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 100 点	

シラバス（前期・後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	日常生活活動			時間数	60
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2 年	単 位 数	2
担当講師	平島 陽子	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	経験年数	21 年
授業内容	ADLの概念、評価とその指導にかかわる知識・技術、生活環境をとりまく諸制度を理解し、治療場面におけるADLの重要性について学ぶ。ADLを支援する機器、活用法を学ぶ。各疾患の機能形態障害、病態とADLについて理解する。				
到達目標	1. ADL の概念を理解する。 2. ADL 評価とその指導に関わる知識・技術を習得する。 3. ADL を支援する福祉機器について理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	ADLの概念について(2時間)	講義
2	ADLと障害、ADLとQOLについて(2時間)	講義
3	ADLの運動学的分析(2時間)	講義実技
4	ADL評価について(2時間)	講義実技
5	ADLを支援する機器、自助具・日常生活用具、歩行補助具、車椅子(2時間)	講義実技
6	ケーススタディ(2時間)	講義実技
7	ケーススタディ(2時間)	講義実技
8	各論:片麻痺(2時間)	講義実技
9	各論:脊髄損傷(2時間)	講義実技
10	各論:脳性麻痺(2時間)	講義実技
11	各論:関節リウマチ(2時間)	講義実技
12	各論:人工股関節術後・下肢切断(2時間)	講義実技
13	各論:呼吸器疾患・循環器疾患・神経筋疾患・難病(2時間)	講義実技
14	ロービジョン、在宅生活に向けた ADL 指導(2時間)	講義
15	まとめ(2時間)	講義
テキスト 参考書等	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学:医学書院 (編集 鶴見隆正 隆島研吾)	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	定期試験(前期、後期)	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	義肢学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	柏木俊彦	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	26
授業内容	① 切断、又は離断部位の選択の一般原則を理解する。 ② 切断術後の断端のケアやリハビリについて実技を通して理解する。				
到達目標	切断のリハビリテーションの流れを把握し義肢の構造と機能を理解すること、 下肢義足を中心に義足操作に必要な身体機能を理解する。 義足による、異常歩行を理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	切断と義肢の基礎知識(切断術・切断の原因・切断術後のリハビリテーション) 2時間	講義
2	切断者の現状 2時間	講義
3	切断手技の一般的原則 2時間	講義
4	下肢切断と機能的特徴(幻肢・幻肢痛) 2時間	講義
5	切断術前・後のケア(ソフトドレッシング・リジッドドレッシング) 2時間	講義
6	早期義足装着法と義足適合判定・アライメント 2時間	講義
7	ベンチアライメント・スタティックアライメント・ダイナミックアライメントについて 2時間	講義
8	大腿義足のソケットと懸垂機構 4・膝義足のソケット・膝継手について 2時間	講義
9	膝継手に求められる役割と望ましい機能について 2時間	講義
10	膝継手の遊脚期・立脚期制御について(イールディング・ハウジング) 2時間	講義
11	初期屈曲角・初期内転角について 2時間	講義
12	大腿切断にみられる異常歩行とその出現時期について 2時間	講義
13	下腿義足ソケット(PTB・KBM・PTS・TSB)について 2時間	講義
14	サイム切断について・足部の種類について 2時間	講義
15	股関節離断(カナダ式ソケットのアライメントについて)股関節継手 2時間	講義
テキスト 参考書等	義肢学 中山書店 石川 朗	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	装具学			時間数	60
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2	単 位 数	2
担当講師	上田 健一	取得資格	理学療法士		
		実務経験	有	経験年数	17
授業内容	臨床の場で疾患に合った装具を使いこなしていく為に、前半では装具に関する目的や機能等の基本的な知識を学び、後半で脳卒中、整形外科疾患、関節リウマチ、小児等の疾患ごと装具療法について学ぶ。				
到達目標	中枢・末梢神経疾患、骨関節疾患、神経筋疾患などにより運動機能障害を呈した人に対して適切な装具療法が実施できるようになる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	装具の目的・分類・名称、3点固定の原理（2時間）	講義
2	装具製作の流れ、装具療法におけるチームアプローチ、歩行のバイオメカニクス（2時間）	講義
3	下肢装具を構成する基本的な部品とその機能（2時間）	講義
4	下肢装具の各種関節継手の構造とその機能、下肢装具の付属品（2時間）	講義
5	短下肢装具の目的・種類・機能（2時間）	講義
6	金属支柱付き装具とプラスチック装具の特徴（2時間）	講義
7	長下肢装具の目的・種類・機能（2時間）	講義
8	股装具と膝装具の目的・種類・機能（2時間）	講義
9	靴の基本構造（2時間）	講義
10	靴型装具に用いられる各補正とその目的、靴インサートとふまず支え（2時間）	講義
11	下肢装具の各関節継手の位置、金属支柱付き下肢装具のチェックアウト項目（2時間）	講義
12	プラスチック下肢装具のチェックアウト項目（2時間）	講義
13	靴型装具のチェックアウト（2時間）	講義
14	下肢装具を装着し、装具歩行の体験（2時間）	講義
15	体幹装具と側彎症装具の特徴・種類（2時間）	講義

回数	授 業 内 容	方法
16	体幹装具と側彎症装具の機能(2時間)	講義
17	上肢装具の分類と名称、各上肢装具と疾患の適応、自助具の種類(2時間)	講義
18	自助具の目的と使用方法、各自助具と疾患・障害の適応(2時間)	講義
19	車椅子の種類と基本構造、車椅子のチェックポイント(2時間)	講義
20	歩行補助具の種類、使用者に合った歩行補助具の選択と適合(2時間)	講義
21	脳卒中片麻痺に合った装具の選択、評価から適切な装具の選択(2時間)	講義
22	脳卒中片麻痺で使用する装具の種類、構造、機能 地域連携パスにおける装具を用いた訓練と装具処方(2時間)	講義
23	骨折治療用装具と免荷装具(2時間)	講義
24	膝関節や足関節の障害と上肢や脊椎疾患に用いられる装具(2時間)	講義
25	関節リウマチの関節症状と主な変形に対する装具 頸椎障害の特徴と頸椎装具の選択(2時間)	講義
26	膝の関節障害の特徴を知り、膝装具の適応(2時間) 足部の変形に対する足底装具や靴型装具	講義
27	対麻痺の残存機能レベルと適合する下肢装具と長下肢装具 (2時間)	講義
28	小児の骨関節疾患と神経筋疾患に対する下肢装具(2時間)	講義
29	短下肢装具の製作過程や装具の適合 採型後の陰性モデルから、除圧部や足関節角度の設定の理解(2時間)	講義
30	まとめ(2時間)	講義
テキスト 参考書等	理学療法テキスト装具学(15レクチャーシリーズ)、中山書店	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	生活環境論			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1 年	単 位 数	1
担当講師	平島 陽子	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	経験年数	21 年
授業内容	理学療法士として地域で生活される障害者の全体像を理解し、またその住居や公共交通機関などの環境面を理解する。				
到達目標	1. 理学療法と生活環境との関係性を理解する。 2. 生活環境としての住宅と住宅環境について理解する。 3. 地域環境の実際を理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	生活環境論の概念(2時間)	講義
2	生活環境の評価(2時間)	講義
3	ケーススタディ(2時間)	講義
4	生活環境と法的諸制度(2時間)	講義
5	生活環境としての住宅と住宅改修(2時間)	講義
6	ケーススタディ(2時間)	講義
7	生活を支える福祉・リハビリテーション関連用具(2時間)	講義
8	ケーススタディ(2時間)	講義
9	地域環境と公共交通(2時間)	講義
10	ケーススタディ(2時間)	講義
11	高齢者の在宅支援サービス(2時間)	講義
12	ケーススタディ(2時間)	講義
13	高齢者の転倒予防と環境調整(2時間)	講義
14	ケーススタディ(2時間)	講義
15	まとめ(2時間)	講義
テキスト 参考書等	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学:医学書院 (編集 鶴見隆正 隆島研吾)	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 100 点	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	地域理学療法学			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	速見 弥央	取得資格	認定理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	経験年数	2 1
授業内容	理学療法に関わる社会資源（専門職、機関・組織、関連法規）について理解を深める。また、高齢者に焦点をあて、健康状態の把握やリスク管理の方法、介護予防の実際について学ぶ。				
到達目標	1. 加齢に伴う身体的特徴とリスク管理を理解し、介護予防・健康増進のための効果的な運動療法の実践ができる。 2. 介護予防・健康増進について、実践を通して理学療法士の関わりを理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	地域理学療法の概念（地域の捉え方、対象、理学療法士の役割） 2時間	講義
2	制度と関連法規（介護保険制度、地域包括ケアシステム等）、 他職種連携 2時間	講義
3,4	高齢者における身体的特徴（フレイル、サルコペニア、認知症、 転倒、抑鬱、摂食・嚥下、骨盤底筋等） 4時間	講義
5,6	健康状態の評価とリスク管理（問診、視診、触診、バイタルサイン、 脱水、貧血、褥瘡等） 4時間	講義
7,8	高齢者のトレーニング効果と体力測定 4時間	講義
9-11	介護予防と健康増進を目的とした運動療法の実際 6時間	講義
12	転倒予防を目的とした住環境整備 2時間	講義
13	歩行補助具と車椅子の使用法 2時間	講義
14,15	介護予防の実際（校外講義）4時間	見学
テキスト 参考書等	柳澤幸夫：高齢者に対する予防的運動介入．文光堂	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験、校外講義への参加	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	地域リハビリテーション			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	平島 陽子	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	19年
授業内容	対象者の機能的な改善、活動・参加レベルへの結びつきを図るとともに、地域（在宅）で安心してその人らしい暮らしができるように支援し、地域住民がともに暮らす体制づくりを学習する。				
到達目標	1. 地域とは何か、また地域で展開されるリハビリテーションについて理解する。 2. 予防分野のリハビリテーションについて理解する。 3. 災害支援と社会貢献について理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	地域リハビリテーションの概念、総論（2時間）	講義
2	地域リハビリテーションの関連制度と関連法規（2時間）	講義
3	地域におけるリスクマネジメント（2時間）	講義
4	ケーススタディ（2時間）	講義
5	地域リハビリテーションプロセス（2時間）	講義
6	地域リハビリテーションの実際（2時間）	講義
7	ケーススタディ（2時間）	講義
8	ケーススタディ（2時間）	講義
9	予防分野のリハビリテーション（2時間）	講義
10	ケーススタディ（2時間）	講義
11	ケーススタディ（2時間）	講義
12	行政における療法士の役割（2時間）	講義
13	地域の防災と災害支援（2時間）	講義
14	地域での起業と社会貢献（2時間）	講義
15	まとめ（2時間）	講義
テキスト 参考書等	PT・OT ビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学：羊土社 （編集 重森健太 横井賀津志）	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 100点	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	見学・検査測定実習			時間数	40
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1 年	単 位 数	1
担当講師	臨床実習指導者講習会受 講済みの理学療法士 及び学年担任	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	5年以上
授業内容	病院での理学療法の見学 検査測定を体験する				
到達目標	病院等での理学療法部門の活動を知る 患者とコミュニケーションを図り検査を体験する				

授業計画

1. 実習目的

- (1) 理学療法の対象疾患、機器の見学および病院内のシステムを把握する。
- (2) 医療関係者としての自覚を形成するために、常に“何故”という視線で物事を見る姿勢を養い、指導者に配慮して積極的な質問ができるようになる。
- (3) 理学療法士の姿勢・態度・服装・整容の大切さ、その意味について考える。
- (4) 実習指導者に関節可動域測定や徒手筋力検査法などの検査測定を体験させていただき、机上の勉強では学べないことを感じる。

2. 実習期間および実習施設

- (1) 期間は1週間とし、実習施設は学校が指定する（実習地に関しては年度毎に異なる）。

3. 対象学生

- (1) 理学療法士養成学科 1 学年生

4. 学生の提出物および方法

- (1) 見学・検査測定実習デイリーノート
毎日、見学・検査測定実習デイリーノートにその日体験したこと、感想、反省、考察等を記載し、毎日、実習指導者の検印を受け、実習終了後にまとめて学校に提出する。
- (2) 見学・検査測定実習出席簿
毎日、見学・検査測定実習出席簿に出欠印を押し、自己管理する。
実習最終日に実習指導者に検印を受け、実習後に学校に提出する。
やむを得ず欠席・遅刻・早退をする場合は必ず実習指導者と学校に連絡をとり、見学・検査測定実習出席簿にその内容を記録し検印を受ける。

5. 成績評価

- (1) 実習期間中の成績評価は実習指導者が作成した、見学・検査測定実習報告書を参考に学校で判定する。

※ 様式に関しては実習要綱に掲載している。

授業科目	評価実習			時間数	160
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2 年	単 位 数	4
担当講師	臨床実習指導者講習会受 講済みの理学療法士 及び学年担任	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	経験年数	5年以上
授業内容	臨床場面で評価を行い、患者の全体像を把握する				
到達目標	理学療法評価を体験し、患者の障害増を把握できる。				

授業計画

1. 実習目的

- (1) 診療参加型で実習を行い、実習指導者の指導および助言のもとで理学療法評価の技術と知識を学び、施設の助手として貢献する。
- (2) 技術とはリスクに配慮して正確に実施できることである。
- (3) 知識とは意義を理解し、評価結果を考察し、言語化できることである。
- (4) 加えて、医療人としての人間性、専門職としての責任感を身につける。

2. 実習期間および実習施設

- (1) 期間は4週間とし、実習施設は学校が指定する（実習地に関しては年度毎に異なる）。

3. 対象学生

- (1) 対象学生
理学療法士養成学科 2 学年生

4. 学生の提出物および方法

(1) 評価実習デイリーノート

毎日、評価実習デイリーノートにその日体験したこと、感想、反省、考察等を記載し、毎日、実習指導者の検印を受け、実習終了後にまとめて学校に提出する。

(2) 評価実習ケースノート（担当症例の評価結果を蓄積するノート）

- (ア) 様式はありません。各自、学校で指導した方法で作成する。
- (イ) 担当症例の評価結果を毎日記録して蓄積する。
- (ウ) 毎日、実習指導者の検印を受ける。
- (エ) 一般情報、医学情報、他部門の情報、理学療法評価を網羅するように計画的に作成する。
- (オ) 実習終了後、学校でこれを参考にグループワークを行い、レジュメを作成し発表する。
- (カ) 実習地ではレジュメ作成の必要はない。

(3) 評価実習出席簿

毎日、評価実習出席簿に出欠印を押し、自己管理する。毎週末、実習指導者に検印を受け、実習後に学校に提出する。

5. 成績評価

- (1) 実習期間中の成績評価は実習指導者が作成した、評価実習報告書と帰校後の発表内容を総合して判定する。
- (2) 実習目的に到達していない者は、学校で指導を行って判定する。

※ 様式に関しては実習要綱に掲載している。

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	総合実習		時間数	720	
学 科	理学療法士養成学科	学 年	3年	単 位 数	18
担当講師	臨床実習指導者講習会受講済 みの理学療法士 及び学年担任	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	経験年数	5年以上
授業内容	実際の臨床現場にて患者の評価を行い、治療計画を立て、治療プログラムを考える。患者によってはそのプランを臨床実習指導者と共に実施する。				
到達目標	評価実習で実施した経験を基に検査測定ができ、問題点から治療計画を立て、治療を実施できる。				

授業計画

1. 実習目的

- (1) 診療参加型で実習を行い、実習指導者の指導および助言のもとで基本的理学療法の技術と知識を学ぶとともに、施設の助手として貢献する。
- (2) 技術とは学生が行える水準の実技をリスクに配慮して実施できることである。
- (3) 知識とは治療プログラムの意義を理解し、処方理由を言語化できることである。
- (4) 加えて、医療人としての人間性、専門職としての責任感を身につける。

2. 実習時間数（期間）および実習施設

- (1) 総合実習の時間数は以下の3つの総計が720時間以上になるように行う。
 - (ア) 総合実習前後の評価時間（学内でのOSCE）
 - (イ) 施設で行う総合実習時間
 - (ウ) 実習時間外に行う学修時間（施設で行う実習を含めて1週間当たり45時間以内）
- (2) 実習期間
 - (ア) 1期総合実習前の評価1週間（1週間の最終日はOSCE）
 - (イ) 施設で行う総合実習9週間×2期＝18週間
 - (ウ) 2期総合実習後の評価1週間（1週間の最終日はOSCE）
- (3) 実習施設は学校が指定する（実習地に関しては年度毎に異なる）。

3. 対象学生

- (1) 対象学生 理学療法士養成学科 3学年生

4. 学生の提出物

- (1) 総合実習デイリーノート

毎日、総合実習デイリーノートにその日体験したこと、感想、反省、考察等を記載し、毎日、実習指導者の検印を受け、実習終了後にまとめて学校に提出する。
- (2) 総合実習ケースノート
 - (ア) 様式はありません。各自、学校で指導した方法もしくは実習指導者の書き方で作成する。
※学校ではSOAP形式で事前に指導します。
 - (イ) 担当症例の情報、評価結果、理学療法プログラム、治療経過など症例に関わる全ての情報を毎日記録して蓄積する。つまり、施設で記録するカルテのようなものを作成する。
 - (ウ) 実習終了後、実習指導者の検印を受ける。
- (3) 総合実習出席簿

毎日、総合実習出席簿に出欠印を押し、自己管理する。毎週末、実習指導者に検印を受け、実習後に学校に提出する。
- (4) 診療参加型臨床実習体験報告書は総合実習終了後に提出。

5. 成績評価

- (1) 実習期間中の成績評価は実習指導者が作成した総合実習報告書、学生の各種提出物を参考に、学校でのOSCEで判定する。

※ 様式に関しては実習要綱に掲載している。

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	地域リハビリテーション実習			時間数	40
学 科	理学療法士養成学科	学 年	3 年	単 位 数	1
担当講師	臨床実習指導者講習会受 講済みの理学療法士 及び学年担任	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	5年以上
授業内容	介護保険施設について、そのシステムを学習する。 介護保険施設における理学療法を見学する。				
到達目標	地域で行われているリハビリテーション活動を知り、地域に貢献できるセラピスト像を学ぶ。				

授業計画

1. 実習目的

- (1) 慢性期理学療法の概要やシステムを把握する。
- (2) 体験できることは積極的に参加し、慢性期理学療法の仕事を感じる。

2. 実習期間および実習施設

- (1) 期間は1週間とし、実習施設は学校が指定する（実習地に関しては年度毎に異なる）。

3. 対象学生

- (1) 理学療法士養成学科 3 学年生

4. 学生の提出物

(1) 地域リハビリテーション実習デイリーノート

毎日、地域リハビリテーションデイリーノートにその日体験したこと、感想、反省、考察等を記載し、毎日、実習指導者の検印を受け、実習終了後にまとめて学校に提出する。

(2) 地域リハビリテーション実習出席簿

毎日、地域リハビリテーション実習出席簿に出欠印を押し、自己管理する。実習最終日に実習指導者に検印を受け、実習後に学校に提出する。
やむを得ず欠席・遅刻・早退をする場合は必ず実習指導者と学校に連絡をとり、地域リハビリテーション実習出席簿(様式 13)にその内容を記録し検印を受ける。

5. 成績評価

- (1) 実習期間中の成績評価は実習指導者が作成した、地域リハビリテーション実習報告書を参考に学校で判定する。

※ 様式に関しては実習要綱に掲載している。